

「千葉城」の歴史（史跡整備の参考として）

【古墳時代】

- ・昭和 37 年（1962）3 月、NHK 熊本放送局の建設中に古墳時代の横穴墓計 10 基（千葉城横穴群）を発見、人骨・須恵器・土師器なども検出され、緊急で調査・記録が行われた。
 - ・横穴群の存在から、古墳時代から現代まで旧地形の大規模改変はなかったことがわかる。
- ※NHK 熊本放送局の建設工事中に偶然発見された遺構なので、実測図が残る横穴 10 基についても、調査・記録した後の建設工事（掘削・基礎工事等）によって失われた可能性が高い。



横穴の想定位置（発見当時の記録と建物の平面図を重ねたもの）

【中世】

- ・南北朝時代以降、中世の一次史料（同時代史料）では、すべて「隈本城」として見えるが、「千葉城」を出田氏が築いた「隈本城」とする説が、明和 9 年（1772）の森本一瑞『肥後国誌』に提唱されている。

「当城者菊池家四代中務太輔経宗弟藤田三郎経家二男出田蔵人経信十四代之孫
出田筑前守秀信所領八十町ヲ領シ初メテ隈本在城ト云、今ノ千葉城ナリ」

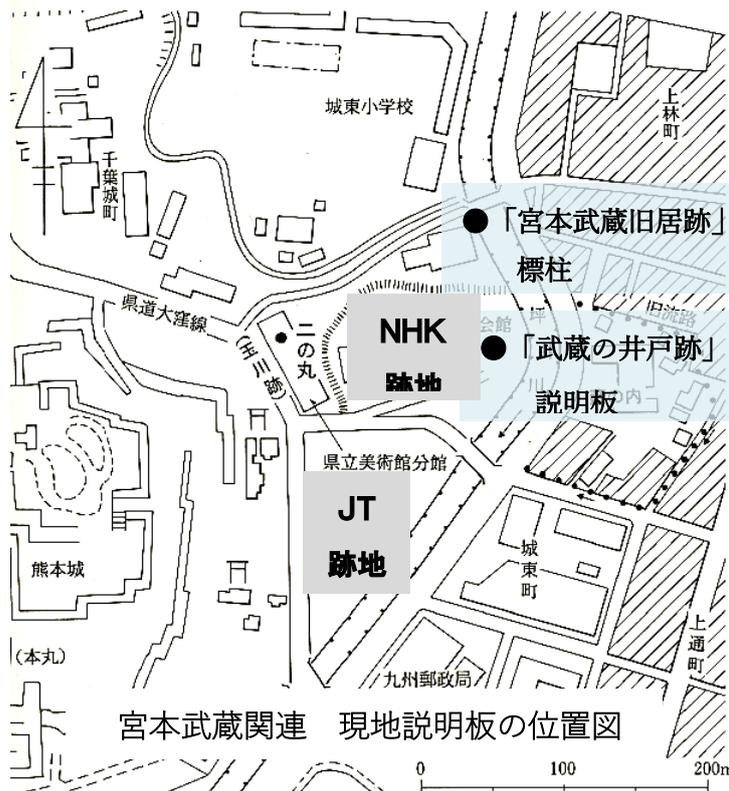
- ・文明 4 年（1478）の藤崎八幡宮文書に藤崎宮惣政所を務める出田山城という人物があり、文亀 2 年（1502）には守護を務めた菊池政隆とともに出田刑部が隈本城に在城している。
 - ・昭和 37 年（1962）3 月、NHK 熊本放送局の建設中に、横穴墓とは別にトンネル 2 本も見つかっており、調査者は中世千葉城に伴う抜け穴ではないかという説を唱えている。
 - ・当時の記録によれば、トンネルの位置は「放送局の進入路を上りつめた位置から西北方に約 50m で開口発見」、穴の方向は「東北方の藤園中学校に延々と続くが、約 20m 地点で崩落」、「出口は旧坪井川の沿岸にあるらしい、別にもう 1 つの抜け穴？もあり」と記す。
- ※但しこれまでの発掘調査では、確実に中世と判断できる遺構・遺物は発見されていない。

【近世】

「特別史跡熊本城跡」(近世城郭)

- ・NHK 跡地は江戸時代以降、武家屋敷として熊本城の東端を形成した一画である。
- ・絵図が多く残されており、土地利用の変遷等を確認することができる。
- ・絵図によれば、加藤時代から武家屋敷（2区画）として利用され、細川時代の絵図には屋敷へ上る坂道も描いているが、やがて4区画に分けられた。
- ・寛永17年（1640）、熊本藩主細川忠利より客分として招かれた晩年の宮本武蔵は、後世の伝記によって「千葉城に居住した」と伝えられている。

※安永5年（1776）成立の『二天記』に「居宅は熊本千葉城と云所に屋敷あり」と記載あり。



宮本武蔵が住んでいた屋敷の場所は千葉城の一角ではあるが、その具体的な地点については特定できない

注) 現在「宮本武蔵」に関連した説明板は、2地点に建っているが、絵図等の歴史資料からは、宮本武蔵が実際に住んでいた屋敷の場所は特定できない。

【近代】

- ・地図・古写真・絵葉書などが残されており、土地利用の変遷等を確認することができる。
- ・明治時代、現在の NHK 跡地の場所は熊本中学校となり、明治10（1877）年の西南戦争では丘の東端に砲台が置かれて、東部方面の攻撃拠点として使用された。
- ・西南戦争後は軍用地となり「工兵営」「憲兵本部」、昭和には「偕行社」（陸軍将校クラブ）を設置し、この頃に現在の大きな坂道が造られた。

【現代】

- ・地図・写真などから、坪井川の河川改修ほか土地利用の変遷等を確認することができる。
- ・戦後しばらくして、昭和37年にNHK熊本放送局が建設され、周辺にも県立美術館分館や教育センター、熊本西年金事務所などが建設されているが、旧地形はほぼ保たれており、外堀となる旧坪井川流路とともに、熊本城の旧城域を見ることができる。

※「熊本城跡 千葉城地区（JT跡地・NHK跡地）保存活用基本構想」に千葉城の歴史を詳しく掲載している